

平成 16 年 3 月 21 日

ソメイヨシノのふるさと駒込（旧染井村） 『染井櫻開花祭り』開催

本日 21 日、「ソメイヨシノ」発祥の地と伝えられる駒込（旧染井村）で、『染井櫻開花祭り』が開催された。主催：染井銀座商店街

豊島区駒込（旧染井村）は、江戸時代には多くの植木屋が軒を連ね、ツツジや菊などの新種の開発が盛んに行われていた。日本を代表する桜「ソメイヨシノ」も、江戸末期から明治初期にかけて、染井村の植木職人が、山桜の品種を改良して作ったといわれている。

「植木の里」として栄えた地域の歴史を掘り起こし、商店街の活性化につなげようと、地元の染井銀座商店街では、ソメイヨシノをテーマに、さまざまな取り組みを進めている。本日の『染井櫻開花祭り』もそのひとつ。地元ブランド酒として一昨年から販売を開始した春の新酒『染井櫻』の春分の日の解禁に合わせ、花見時期の到来を告げる祭りとして昨年から開催しているもの。

【地元ブランド酒『染井櫻』】

フランスのヌーボーワインならぬ日本酒のヌーボーをめざし、平成 14 年から販売開始。桜のイメージにふさわしい日本酒をと、秋田県浅舞酒造に依頼し、散る花びらを思わせるうっすらにごりの入ったまろやかな味わいの新酒として誕生。今年はこちらに、旨い酒造りで評判の鳥取県の江原酒造による「通好みの辛口」が加わり、ソフトな口当たりのオリジナルと芳醇辛口の 2 種類を販売。

【駒込から『千本桜』を】

地元ブランド酒の販売に加え、同商店街が取り組んでいるのが『千本桜』計画。ソメイヨシノのふるさから桜並木を広げようと、昨年 2 月、『染井櫻』の売り上げの一部に募金を加え、商店街に 30 本のソメイヨシノの植木を設置した。地植えの桜は枝が張り出し通行の邪魔になりやすく、また害虫なども発生しやすいため商店街には向かないと言われていたが、特殊な栽培土で開発されたこの植木は大きくなっても 2.5 メートル程度、また虫も付かず、道路があまり広くない商店街でも本物の桜が楽しめる。今後も増やしていく予定だが、さらに地域の中にも桜を植えてもらい、開花時期には街じゅうがピンク色に染まるようにと、本日の祭りで桜の苗木 200 本を無料配布した。

午後 1 時、商店街の中ほどに位置する染井コミュニティ広場（駒込 6-30）でのオープニングセレモニーを皮切りに祭りがスタートした。広場では地元駒込小学校児童の合唱や近隣の東京外国大学ブラスバンドの演奏が繰り広げられた。チラホラと咲き始めた桜の植木が設置された商店街の通りでは、ジャグラーやマジックなどの大道芸も披露され、『染井櫻』の酒樽が鏡割りされた試飲販売会場は多くの人で賑わい、新酒の売れ行きも好調。『染井櫻』の酒粕から作った甘酒も無料で配られ、訪れた人々が花見酒を楽しんだ。また、午後 2 時からの桜の苗木プレゼントには、時間前から行列ができ、あっという間に無くなる盛況ぶり。春の陽射しの中、商店街のあちこちに楽しい歓声が響いていた。

染井銀座商店街会長の高埜秀典さんは「ソメイヨシノはあっという間に全国に広まったけれど、駒込が発祥の地ということはあまり知られていない。花同様、発祥の地駒込の名を全国に広めていきたい」と語っている。

◆詳細 駒込染井銀座商店街振興組合